

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「最近、短大に勤める英語の先生と知り合ったときのことである。わたしがロシア語の教師をしているというのと、その先生はこんなことを話してくれた。

「最近、短大も四年制大学に切り替わろうとしていまして、もう会議ばかりです。ある会議で、将来のカリキュラムに関するケントウがおこなわれまして、新しい外国語のドウニユウのことが話題になりました。そのときロシア語もカイ、コウしようという声があったのですが、ある先生から『ロシア語はとても難しい言語だと聞いているので、英語ですら苦労している学生には無理ではないか？』という意見が出て、結局は見送りとなつてしまったのです。先生、ロシア語ってそんなに難しいんですか？」

わたしががっかりしたことはない。

ロシア語はとても難しい言語であると信じられている。これがかつて挑戦してみたものの挫折してしまった人がいうのなら、まあ、そういう感想を持つかもしれない。ところがやったこともない人まで難しいと思いついてるのは不思議だ。

じゃあ易しい言語は何かと、反対に尋ねたくもなる。ところがこれはあまり意見の一致を見ない。ある人は英語がとても易しいという。しかしこれが全員の意見でないことはすぐに分かる。英語で苦労している人は日本中に溢れている。簡単にマスターできるのであつたら、「簡単に覚えられる英会話」式の本があんなに出るはずがない。

イタリア語とかスペイン語もよく易しいといわれる。この場合も勉強をしたことのない人までこれを信じていることがときどきあるから、不思議である。ちょうどロシア語に対するヘンケンの裏返しだ。実際に勉強している人に尋ねてみれば、いろいろな意見があるはずである。

確かに言語にはいろいろなタイプがある。たとえば学習の初期に多くのことを覚えなければならない言語がある（ロシア語などがこれである）。書きことばの場合、見慣れぬ文字を使っていればこの習得にも時間をかけなければならない（ロシア語がそうである）。そして身近にネイティブスピーカーがいない言語だったら、実践の場も少なからう（またまたロシア語である）。その反対に学習の初期は比較的簡単に、文字体系にも馴染みがあり、また身近に話し手がいれば、易しく感じられることだろう（たとえば英語だ）。

さらには、すでにどのような言語を知っているのかという、あたりまえのことも難易度を大きく左右する。たとえば英語とドイツ語に⁽¹⁾通曉しているのであれば、オランダ語を学ぶときには易しく感じられることであろうし、さらに南アフリカのアフリカーンス語を学べば、英・独・蘭語の知識

のない人とはまったく条件が違うはずだ。

したがって、もしロシア語に近い言語をすでに習得していれば、ロシア語の学習に対する困難がずっと軽減される。

だからといって、「ロシア語が易しく感じられるようにするために、前もってポーランド語とブルガリア語をマスターしておく」というのは、あまりにも現実離れた意見である。それに近い言語を知っていると、よいことばかりではなくかえって混乱を起こすこともあるというのは、再三指摘しているとおりだ。

では日本人にとって⁽²⁾絶対的に易しい言語があれば、はたして多くの人が学びたいと思うだろうか？ たとえばここにとても易しい言語があるとする。日本人ならわりと簡単にマスターできる。しかしこれがごく一部の人しか使っていない言語であれば、その地域にとくに興味のある人でない限り、あまりメリットはない。たとえ多くの人が話していたとしても、たとえば英語で用が足りるのであれば、わざわざ学習する **A** も弱まる。その地域が日本との **B** が薄く、交流があまりない場合にはビジネスその他の **C** もあまりなくなる。そして多くの日本人が簡単に身につけられるために、通訳・翻訳の仕事をするには常人を超える高度な言語能力が要求されるはずで、多少できるというレベルでは **D** はない。

そもそも、いったい何のために言語を勉強するのか？ その言語が使用されている地域の文化に興味があるからではないか？ またはどんな苦勞をしてでもその言語を身につければ、すばらしいビジネスチャンスがあるからではないか？ そのときにことばが易しいとかナントカ、そんなことで文句をいうこと自体、間違っているし、そもそも虚しいことなのである。

また、具体的な動機はないけれど、なんとなく外国語を勉強したいなあと考えた人であれば、やるべきことはどの外国語が易しいのか調べるのではなく、テレビの海外報道番組を見たり、世界各地を紹介する本を読んだりして、どこの国が面白そうか探るべきである。

ある外国語が難しいといえるのは、その外国語に取り組んでいる人だけである。外国語学習という長いプロセスの中で、たまには「ああ、どうしてこんな難しい言語を選んじゃったんだろう」と嘆くことは許されているはずだ（わたしだってそうして精神のバランスをとることがある）。だからといってそれを挫折の理由にするのだとしたら、あなたにはハイ **e** ボク感が残るだけで、なんの救いにもならないだろう。

（黒田龍之助『外国語の水曜日再入門』による）

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1

b || 2

c || 3

d || 4

e || 5

a ケントウ

- 1 ケンアくな空気が流れる。
- 2 ケンキョな振る舞い。
- 3 急にシンケンな表情になる。
- 4 異常がないかテンケンする。
- 5 絶対的なケンリヨクを握る。

b ドウニユウ

- 1 部下をシドウする。
- 2 飛行機がドウタイ着陸する。
- 3 空腹で近くのショクタドウに行く。
- 4 ドウリをわきまえる。
- 5 人間の心理をドウサツする。

c カイコウ

- 1 コウズイ対策に堤防を強化する。
- 2 船がニユウコウする。
- 3 免許証のコウシユウを受ける。
- 4 印刷物のコウセイをする。
- 5 新聞をコウドクする。

d ヘンケン

- 1 ヘンキョウを旅する。
- 2 通販で買った品物をヘンソウする。
- 3 ガラスのハヘンが散らばる。
- 4 世界中をヘンレキする。
- 5 ヘンシヨクは健康によくない。

e ハイボク

- 1 ソボクな疑問をいだく。
- 2 伝染病をボクメツする。
- 3 牛馬をホウボクして育てる。
- 4 シンボクを深める。
- 5 台風がホクジヨウする。

問(二)

傍線部ア、オについて、他の四つとは品詞の異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- 1 ア さる
- 2 イ その
- 3 ウ ある
- 4 エ これ
- 5 オ そういう

問(三)

傍線部(1)「通暁」の「通」と意味が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- 1 通読
- 2 通勤
- 3 精通
- 4 通告
- 5 通常

問(四)

傍線部(2)「絶対的」の対義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- 1 対比的
- 2 平均的
- 3 一般的
- 4 対照的
- 5 相対的

問(五) 空欄 A D に入れるのにふさわしい語の組み合わせを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 A 機会 B 関係 C 仕事 D 動機
- 2 A 機会 B 動機 C 関係 D 仕事
- 3 A 動機 B 関係 C 機会 D 仕事
- 4 A 動機 B 機会 C 仕事 D 関係
- 5 A 動機 B 仕事 C 関係 D 機会

問(六) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 外国語を勉強したいのなら、学習の難易度など気にすることなく、自分が興味を感じる国の言語から始めればよい。
- 2 簡単にマスターできる外国語など一つもないから、まずは長い学習のプロセスに耐える覚悟を持つべきである。
- 3 日本人が英語の学習に苦勞するのは、英語を使っている文化圏に対して、何の興味も抱いていないからである。
- 4 学習の初期に多くのことを覚えなければならない言語は、ある程度学習が深まれば、むしろ容易にマスターできる。
- 5 世界のごく一部の人しか使っていない言語は、ビジネスチャンスにつながらないので、学習の意欲をそそらない。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一二月の大吹雪のときには、ニューヨークからボストンにバスで行くのに、通常は四時間二〇分のところが一二時間近くかかってしまった。午後から吹雪という天気予報はあったのだけれど、朝早く出たらなんとかなると思っていたら、途中から雪がこれでもかこれでもかと降りはじめ、除雪が間に合わず、ハイウェイはのろのろ運転。路肩には（どころか、ときには道の真ん中にも）身動きのとれなくなった車が何台もとまっている。携帯電話を握りしめている人が中に見えるのだが、いったいどうなるのだろうと人ごとながら心配になる。

だれも乗っていない車もある。さっさとあきらめて車を捨て、最寄りの街までほかの車にでも乗せてもらったのだろうか。車を取りに戻るのはいへんだが、無理に運転して事故を起こしたり、ガソリンがなくなって車の中で凍死してしまったりするよりはいいかもしれない。これだけたくさんの車が立ち往生しているのだから、臨時バスでも走らせて、中の人たちをピックアップして、次の日にまた連れてきて車をもっていかなせるようにするといいのかもしれない。バスの中の時間があまりに長いので、窓の外を眺めながら、そんなサービス・システムを考えてみたりする。

かわいそうなのはバスの運転手である。交代はいない。吹雪の中、乗客の命を預かりながらの運転は神経を使うだろう。それを一二時間。疲れ果て、途中で「もういやだ！」と投げ出したくなってもおかしくない。（イ）運転手は落ち着いた人だった。乗客もみんな静かだった。こういう状況でもみんなが落ち着いているというのはありがたい。見えない信頼感が生まれ、つかの間の運命共同体ができあがる。夜遅くボストンに着いたときには、歓声とともに拍手が自然にわき起り、⁽¹⁾各乗客は運転手と固い握手をしながら、バスを降りていった。

雪の次は、氷。寒波がつづくとき雪はそのまま氷になる。凍りついた道はつるつるすべる。歩くときは転ばないように身体の変なところに力が入る。車を運転するときはスリップしないよう、してもパニックにならないよう自分にいい聞かせるが、顔はこわばったままだ。（ロ）氷になる前の除雪作業が大事なのだが、これがまた重労働。東北に住むカウンセラーの友人が、「ここでは⁽²⁾家族の葛藤や力動は、すべて雪かきの分担にあらわれるのよ」といつていたが、その意味が実感とともに理解できる。寒波のあとに小春日和が何日かつづき、積もっていた雪が溶けると、太陽に心から感謝を捧げ^捧たくなる。（一）

なぜ、ヨーロッパからの移民はこんな寒いところに植民したのでろうと思ったりする。暖房設備の整っていない時代である。薪や暖炉はあったかもしれないけど、水は冷たく、家はすきま風だらけだっただろう。故郷も似たような気候だったから、気にならなかったのだろうか。（ハ）南に行けばもっと暖かい気候だということ知らなかったのだろうか。知っていたけれども、慣れた気候のほうがたとえ凍えようとも安心できたのだろうか。たぶん歴史の本をひもとけば納得のいく理由がいくつも書かれているのだろうか、とりあえずはそのころの苦勞に思いをはせる。長い冬を越える

こと。越冬。(2)

どんなにいやでも、まだまだ冬はつづく。それならいやがるより楽しんだほうがいい、そう発想を変えてみることにする。

⁽³⁾ まずは風景。たまたま『春夏秋冬そして春』という映画をDVDで見た(キム・ギドク監督、二〇〇三年)。韓国の山奥の湖に浮かぶ寺の、四季折々の自然を舞台にした少年の成長物語だが、とにかく映像が鮮やかで美しい。(二)、春夏秋冬の山の自然は日本でもすでに歴史を通して愛でられ、描き尽くされてきたので、なんとなく既視感がある。けれども冬の景色は、はっとするほど新鮮だ。凍りついた湖の静けさや、その表面に描かれる氷紋^a、吐く息のきらきらする感じや、透きとおった空、極端に色合いの限られた峽谷^b……。

ボストンはもつと都会だが、それでも似たような美に出会うことがある。すつきりと並ぶ裸の街路樹。凜^Xとした石像。インク画のような雪の公園。チャールズ川の凍った白い渦巻き模様の表面と、その下の豊かな水の流れ……。冬には冬の美しさがある。それはきびしさをふくんだ美しさである。腐敗や混濁^c、汚染を拒否する美しさである。そして、見えないところで生命の息吹を保ち育てている美しさでもある。(3)

次にスポーツ。冬といえば、なんといっても⁽⁴⁾ アメリカン・フットボールである。休みの日の午後はテレビでアメフト観戦というのが、米国のお父さんたちの正しい過ごし方である。わたしはアメフトのルールをまったく知らないの、単純に選手の動きを見る。これは球技ではない。ボールは使うが、必然ではない。(ホ) 格闘技に近いかもしれない。そんなことを思う。そしてたどりついた偉大な(?) 結論。アメフトとは鬼ごっこである!!! (4)

大の男たちが鬼ごっこに夢中になっているのだ。鬼ごっこのためにチームを編成して、あんなにかついプロテクターを着けて、監督やコーチが作戦を練って指図して(じつはアメフトは軍隊のように厳密な作戦が立てられ、個人の自由があまりきかないらしい)、大きなスタジアムが用意されて、おそろしい寒さにもかかわらず、サポーターや観客がたくさんやって来て応援する。

それにアメフトは肉弾戦である。人間の身体の強靱^{きょうじん}さや敏捷^{びんしょう}さ、そして脆弱^{ぜいじやく}性を観察するには絶好の機会である。でもこれも「押しくらまんじゅうだ!!!」といってしまえなくもない。押しくらまんじゅうも、冬ならではの遊びである。夏の炎天下、いかつい男たちが汗べとべとになってやっていたら、見ていられないかもしれない。(5)

^(注1) ホイジンガや^(注2) カイヨワといった哲学者が書いているが、遊びは人間の活動のとても重要な要素を占めている。医学にしろなんにしろ、研究にも遊びの延長のようなどころがある。楽しくなければつづかない。若々しいともガキっぽいとも表現しうるが、研究者の中には「⁽⁵⁾ 大いなる子ども」のような人が、米国でも少なくない。そもそも「年がいてもなく」することほど、ワクワクすることは少ない。「大の大人が……」と^Y 響^{ひびく}感を買うような遊びに、冬だからこそ夢中になってみていいかもしれない。

(注1) ホイジंगाヨハン・ホイジंगा、一八七二～一九四五年。オランダの歴史学者。

(注2) カイヨワロジエ・カイヨワ、一九一三～一九八七年。フランスの哲学者、社会学者、文芸批評家。

問(一) 傍線部a～cの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1 b || 2 c || 3

a 氷紋 (1) 訳文 (2) 門松 (3) 分散 (4) 問屋 (5) 未聞

b 峡谷 (1) 恭順 (2) 養鶏 (3) 空疎 (4) 孝行 (5) 差額

c 混濁 (1) 恥辱 (2) 駐屯 (3) 囑託 (4) 諾否 (5) 拷問

問(二) 空欄(イ)～(ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

んではいけません。) イ || 4 ロ || 5 ハ || 6 ニ || 7 ホ || 8

1 むしろ 2 だから 3 たとえば 4 でも 5 ただ 6 それとも

問(三) 傍線部(1)「各乗客は運転手と固い握手をしながら、バスを降りていった」とありますが、この時の乗客の心情を示す語としてふさわしくないも

のを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

1 安堵 2 感謝 3 倦怠 4 解放 5 賞賛

問(四) 傍線部(2)「家族の葛藤や力動は、すべて雪かきの分担にあらわれる」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 家族内の深刻な対立や力関係のいびつさは、雪かき作業を分担することで少しは解消されるということ
- 2 家族同士のみ入った関係や力の優劣は、雪かきの分担にあるがままに示されるということ
- 3 家族の持つ精神的な苦しみや無力感も、雪かきという肉体的な分担作業で何とか乗り越えられるということ
- 4 家族内の隠れたジレンマや指導権争いは、雪かきの分担を決める際にあらわになるということ
- 5 家族が抱える問題の深刻さや生活の窮迫は、雪かきの分担の仕方を見れば明らかになるということ

問(五) 傍線部(3)「まずは風景」とありますが、筆者は冬の風景をどのように捉えていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 いついかなる場所で見ても常に既視感を抱いてしまう、春夏秋冬にはない独特の美しさを持つ風景である。
- 2 春夏秋冬のように歴史を通して愛でられた風景ではないので、見る者が新たな美しさを発見できる風景である。
- 3 清らかさを貫こうとする厳しさと潜在的な生命の息吹を内に秘め、新鮮な美しさを持つ風景である。
- 4 韓国の山奥やアメリカのボストンの冬景色がとりわけ素晴らしく、映画や絵画の素材にふさわしい風景である。
- 5 冬の色合いは限られているがゆえに、人間に厳しさや清潔感、生命力を感じさせる風景である。

問(六) 傍線部X「凛りんとした」、Y「擧ひんしやく感を買う」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

X || 12

Y || 13

X「凛とした」

1 きびしく威圧的な

2 きりりと引き締まった

3 冷たくて人を寄せつけない

4 歴史の重みを感じさせる

5 力強くて生命感に満ちた

Y「擧感を買う」

1 嫌われ、軽蔑される

2 からかわれ、笑われる

3 崇められ、拜まれる

4 嘆かれ、気の毒がられる

5 好まれ、支持される

問(七) 傍線部(4)「アメリカン・フットボール」についての筆者の考えとしてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

い。 14

1 球技というより格闘技に近いもので、ボールを使わねばならない必然性がよく理解できない。

2 自分には鬼ごっこにしか見えないが、厳密な作戦が存在して、選手は自由に動いているわけではないらしい。

3 冬ならではの押しくらまじゅうのように見え、夏に汗だくでする様子はあまり見たくない。

4 どんなに寒くても大きなスタジアムが観客で埋まるほど、多くの人が夢中になるスポーツである。

5 人間の身体の強靱さ、敏捷さ、脆弱性が観察できるものの、知的なスポーツとはとても言えない。

問(八) 傍線部(5)「大いなる子ども」とはどのような人間のことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 幼少期に夢中になった遊びの楽しさを成長後も忘れられず、大人になっても相変わらずその遊びを続けている人間
- 2 子どもの遊びが人間の活動として重要な要素を持つことを認識し、それを自分の学問研究に役立てている人間
- 3 まだたわいのない遊びに夢中になるような年頃であるのに、大人顔負けの知識や能力を身につけている人間
- 4 遊びに夢中になれた幼少期の心を成長後も失わず、その心を活性化させながら学問研究を楽しんでいる人間
- 5 自分の中の幼児性からいつまでも脱却できず、成長しても常に遊びの延長として仕事をしている人間

問(九) 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

その言葉の重みをずっしり受け取る。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十) 生徒A～Eが本文の読後感を話し合いました。読後感としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 A 筆者はポストンの厳しい冬に嫌気がさすどころか、むしろ待ってましたとばかりに楽しんでるよ。
- 2 B ポストンの冬の風景やスポーツを例にあげながら、その美しさや楽しさを紹介していて、興味深い内容だね。
- 3 C 『春夏秋冬そして春』という映画は私も観たけれど、確かに冬の景色の厳しい美しさは印象に残っているよ。
- 4 D アメフトが鬼ごっこで押しくらまんじゅうだと言うのは、なんともいい得て妙だ。じつに発想が面白い。
- 5 E まさにアメフトは冬の遊びといった感じで、ホイジンガやカイヨワが言うように、遊びは人間にとって大切な活動なんだ。

3 次の各問いに答えなさい。

問(一) 「功罪」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 未開
- 2 握手
- 3 静寂
- 4 緩急
- 5 主人

1

問(二) 漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 諦(あきら)める
- 2 罵(ののし)る
- 3 萎(い)える
- 4 悔(く)やむ
- 5 断(た)つ

2

問(三) 熟語の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

- 1 衷心(あいしん)
- 2 一抹(いちまつ)
- 3 辛苦(しんく)
- 4 鼓舞(こぶ)
- 5 流罪(るざい)

問(四) 漢字の画数が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 4

- 1 危 (6画)
- 2 届 (8画)
- 3 甘 (4画)
- 4 凹 (5画)
- 5 為 (9画)

問(五) 「能天気」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 5

- 1 物事が順調に進むさま
- 2 よい天気が続くさま
- 3 のんきで軽薄なさま
- 4 勝手気ままなさま
- 5 頭脳が明晰なさま

問(六) 次の慣用句の空欄 に入る漢字を、後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

異 を放つ (才能や技量が際立って優れている)

- 1 歳
- 2 際
- 3 才
- 4 祭
- 5 彩

問(七) 「反面教師」と意味が最も近いことわざを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- 1 蛙の子は蛙
- 2 人の振り見てわが振り直せ
- 3 枯れ木も山の賑わい
- 4 三つ子の魂百まで
- 5 無理が通れば道理が引つ込む

問(八) 敬語の種類が他の四つとは異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- 1 奉る
- 2 承る
- 3 召し上がる
- 4 いただく
- 5 差し上げる

問(九) 「踏襲」の類義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- 1 継承
- 2 忍耐
- 3 没頭
- 4 会得
- 5 侵略

問(十) 外来語とその訳語の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 アイデンティティ (同一性)
- 2 オノマトペ (擬音語・擬態語)
- 3 アナクロニズム (時代錯誤)
- 4 メタファー (隠喩)
- 5 リテラシー (階層性・階級制)

問(十一) 他の四つとは性質の異なる言葉を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 くねくね
- 2 ぜんぜん
- 3 おろおろ
- 4 するする
- 5 じわじわ

問(十二) 作家とその流派の組み合わせとしてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 夏目漱石 (余裕派)
- 2 谷崎潤一郎 (耽美派)
- 3 小林多喜二 (白樺派)
- 4 横光利一 (新感覚派)
- 5 芥川龍之介 (新理知派)

設問は以上です。

問(八) 傍線部(5)「相撲」は二字で「すもう」と訓読みする熟字訓です。同じように読むものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 脇役
- 2 為替
- 3 膝頭
- 4 錠前
- 5 耽溺

問(九) 傍線部(6)「巷ちやうたで」()に振る舞っているこどもたち」の空欄()を補うのにふさわしい四字熟語を、次のうちから一つ選び、その番号をマ

クしなさい。

15

- 1 疑心暗鬼
- 2 天真爛漫ちんぜんらんまん
- 3 支離滅裂
- 4 傍若無人
- 5 勇猛果敢

問(十) 傍線部(7)「息子がことさらにあまえる土壌は、この家にはないかと安心した」とありますが、ここに至る「わたし」の心情の推移の説明として

ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

1 息子に投げ飛ばされて怪我を負ったために、妻に見限られてしまい、悲しくなった息子と妻を同時に見て、自分の立場が狭まったと思いはしたものの、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

2 息子に投げ飛ばされて怪我を負ったけれども、息子も心配そうな目をしていたし、妻も自分の仇をとるように息子を叱ってくれたので、これも怪我の功名だと思い、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

3 息子に投げ飛ばされて非常に口惜しいと思う一方で、怪我をさせたという負い目が今後役に立つのではないかと思い直し、また妻が強くなることに不安を覚えましたが、最後には息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

4 親の威厳を見せようとしてかえって息子に同情されるといふ、父親として情けない目に合ったけれども、妻が自分の肩をもってくれて、息子を手厳しく叱りつけたので、息子が甘える土壌はこの家にはないと思って安心した。

5 自分と息子の力関係が逆転して息子に逞しさを感じると同時に、自分が強くなるしかないかと思っっている妻の様子を見て、もう息子が甘える土壌は我が家にはないと安心した。

問
(土)

本文の標題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 父と息子の確執
- 2 最近のこどもたち
- 3 親父のプライド
- 4 夫婦の駆け引き
- 5 怪我の功名

設問は以上です。